

原田 詞穂子

学問の面白さを知ろう(アジア諸国への
法整備支援)

日本政府は1996年以降、アジアのいわゆる発展途上国に対し、法整備支援を開始した。日本が最初に支援を開始したベトナムでは、共産党勢力が強く、エリートである検察官は共産党員が占め、政治色の強いものであった。また、それに対し、裁判官や弁護士は、共産党員でない人々も多く、あまり権力がないため、結局公正な裁判ができない状況であった。カンボジアでは、民法がないため、遺産相続の際、自分の利益のために兄弟を殺したり、裁判官に対し賄賂を渡すといった事態が多発していた。そんな非常事態にもかかわらず、ポルポト政権下で大量虐殺が行われ、国内に法律家が4～7人しか残らなかった。

国内の決まり事である法整備に、他国が介入していいものか、という疑問を抱く人もいるだろう。しかし、同じようなことは歴史上様々な国でみられた事なのだ。例えば日本も明治時代には、西洋の技術や文化をいち早く取り入れるため、「お雇い外国人」と呼ばれる人々をヨーロッパから大勢招いた。その中の一人が、パリ大学の民法の教授、ボアソナードであった。彼は日本国内に法律学校を設立し、日本における法学教育の先駆者となり、また自ら民法の草案を作りあげた。国王の権力が強く、フランス革命においては多くの国民の首がはねられたという歴史をもつフランス法の風潮は、当時不平等条約改正に焦点のあっていた日本の国情にはあわず、結局実現には至らなかったものの、彼の日本に与えた影響は大きかった。

そもそも、法整備支援とは何なのか。それは法律分野での開発援助、国際協力であり、一つ目が、立法支援である。昨年のカンボジアにおける、民法・民事訴訟法の制定が例である。二つ目が、法曹養成支援である。これは先程のベトナムのように、政治と絡んで法律家正しい裁判ができない、といった状況を回避するため、法律家の養成を手助けすることである。三つ目が法学教育支援である。これは、現在名古屋大学もさかんに行っている、身近なものである。ベトナム、ラオス、カンボジアやモンゴルなどからの留学生を法科大学院に迎え、現代の法学を学ぶ機会を与えたり、日本の法律を学ばせるセンターをそれらの国々に設立し、その中の優秀な20名に4年間日本語教育を行い、日本語検定2級レベルの日本語を習得させ、その3年目から日本法教育を日本語で行うなどといったものである。これは、日本法の英訳化がまだ進んでいないという事情によるものである。その中でも優秀な者には奨学金を出すなどして、より活発な教育がめざされている。

日本のJICAの他、スウェーデンのSIDA、アメリカのUSAIDなど、様々な機関が、現在移行期にある国々の支援に力を注いでいる。

今回先生の講義をお聞きして、私たちににとってはお難くて少し遠いものを感じる憲法や、うっとうしくてつい破りたくなってしまうがちな校則などの「きまり」の重要性を改めて知った。少し悲しいが、いくら人には心がある、と言っても、人間の理性のもつ制御能力には限界があると思う。小さい頃から、「お店のものを盗んだら犯罪だよ」「人を殺したら捕まるよ」といった「きまり」を教えられて、人は自然と自分の行動をコントロールできるようになるし、良し悪しの境界を知ると思う。私はそういった感覚(〇〇はいけない事だ、

など。)が当たり前のものだと思っていたので、遺産相続の際自分の利益のみに目がくらんで兄を殺してしまった人の話にはかなり衝撃を受けた。しかしよく考えてみれば、多くの人々が飢え、明日の食べ物を求めてさまよい歩いているような国で、「法律がない」とはとても恐ろしい事態だ。そういった事件が起きたのも無理ないように思える。

確かに、一国の基盤となる法律を他国が作ってしまっても良いものか、という疑問はもっともである。しかし、もし日本が明治維新の際、西洋の法律を参考にし取り入れることがなかったら、現在の私たちの平和な暮らしは無く、天皇中心の軍国主義国のままだったかもしれないのだ。現在日本が行っている様々な経済支援は重要なものだろう。しかしそれはひょっとしたら、その国がその場の危機を乗り切るための一時的効果をもたらすにすぎないものかもしれない。それに対し、法整備支援はその国のずっと先の平和や繁栄を約束するものになりうると思う。

日本が、明治維新、戦争を乗り越え、先進国として発展をとげた現在までに培ってきたものを、今度は発展途上国に伝える番だと思う。日本の法律の英訳化が進んでいないために、留学生の学習が少し遠回りになっているのでは、という気も最初はしたが、その言語だからこそ伝わる細かいニュアンスもあると思う。名古屋大学が、世界にまで手を伸ばしそういった法律家養成教育を行っていることは今回はじめて知った。法律には正直あまり興味が無かったが、日本が作った外国の法律がどんな内容であるのか、これから知ってみたいと思った。